

令和3年度いきものガイドウォーク

月	日	担当		観察内容	写真1	写真2	コース図
4	24	佐藤	辰尾	テーマ: ※コロナにより中止			
5	22	河野	芳野	テーマ: ※コロナにより中止			
6	26	久保	善宝	テーマ: ※コロナにより中止			
9	25	芳野	佐藤	テーマ: ※コロナにより中止			
10	23	辰尾	渡辺	<p>テーマ:秋色の公園を楽しむ ～秋の気配と樹の実観察～</p> <p>天候:晴、参加者6名。(※事前申込制、集合時に検温実施)</p> <p>この数日前からすっかり秋の空気に変わり、当日も好天でした。果実等(果実、ドングリ、松ぼっくり、銀杏など)を中心に観察。果実の特長や種子の散布方法(野鳥、動物、風)などについて解説しました。最後に、雑木林のナラ枯れの状況について見学して終了としました。</p> <p>観察したもの:ピラカンサ、モッコク、モミ、ケヤキ、マテバシイ、イロハモミジ、イチヨウ、エノキ、ヒマラヤスギ、ユリノキ、コスモス、ヒナツチガキ(キノコ)、フユノハナワラビ(シダ)など。</p>			
11	27	善宝	河野	<p>テーマ:秋色の公園を楽しむ ～晩秋の公園の彩り～</p> <p>天候:晴、参加者13名。(※事前申込制、1名当日参加)</p> <p>今年は暖かい日が続いていましたが、今日は冬型の気圧配置。風は冷たいものの、青空の下さわやかな観察会でした。紅葉のハゼノキ、ヤマザクラ、黄色いエノキ、イチヨウ、常緑のマテバシイ、ユーカリなどを観察。赤いキワサンザシやカナメモチの実、濃紺のエノキ、茶色のウラジロモミ、マテバシイの実を観察。銀杏が目立つのに実が落ちていないのは雌雄のためなどを説明。最後にサザンカとツバキの違いと、その葉を好むチャドクガの話で締めくくりました。</p> <p>お子さん2名参加、コアラの話、マテバシイとスダジイのドングリの食べ比べが好評でした。</p>			
12	18	松本	久保	<p>テーマ:お正月を寿ぐ植物</p> <p>天候:晴れ、参加者4名(5名ほど、取消があった模様)</p> <p>寒かったが、日の当たる場所で、説明を実施することを心がけ、楽しかったとの評価を頂いた。飛行機の所で、正月飾り(鏡餅、門松、しめ飾り)と正月を寿ぐ緑色4種類の植物・赤い実4種類の植物・花8種類について説明し、スタート。ロウバイ園でロウバイと水仙を観察。ロウバイ・水仙は花を咲かせていた。又、目測と計測機を使用してヒマヤラスギの樹高を測定した。日本庭園で、モウソウチク・オカメザサ・梅・南天・マンリョウ・松などを観察、まだ芽を出していない福寿草についても写真を使用し説明した。又、杉の所で杉の価格について話をした。次に図書館から万葉植物園を歩き、スタート時点へ戻り解散した。途中、サザンカの花・クスノキ・カラタチ・ハゼノキの紅葉などを観察。参加者からのリクエストがあり、担当の溝口様の許可を頂き、11時50分の解散となった。</p>			
					<p>裂開途中のモッコクの実</p>	<p>エノキの実を食べるアオゲラ</p>	<p>(点線のルートが今回のコース)</p>
					<p>紅葉の美しいハゼノキ(ウルシ科)</p>	<p>コアラの主食ユーカリ(数種)</p>	
					<p>スイセン(水仙):ヒガンバナ科スイセン属、まだ寒い冬に花を咲かせる。古くから正月を飾る花。球根が中国から海流によって漂着したものが野生化したとの説がある。</p>	<p>ソシンロウバイ(素心臘梅):ロウバイ科ロウバイ属、梅より早く春を告げる花。うっとりするぐらいの甘い香りがし、正月を飾る花として愛されてきた。ロウバイは花の中央部の花心が暗紫色なのに対して、ソシンロウバイは黄色。花弁が丸く、芳香が強い。</p>	

1	22	渡辺	辰尾	<p>テーマ：冬の公園の楽しみ方 ～バード・ウォッチングのススメ～ 天候：晴、参加者7名。（※事前申込制、集合時に検温実施）</p> <p>この前日からコロナのまん延防止等重点措置が適用され開催が危ぶまれましたが、無事実施となりました。 天候は、連日の強風も止み良い鳥見日和となりました。野鳥もよく現れ、アトリ、カワセミ、アオサギ、ジョウビタキなどフィールドスコープを通じて観察できました。参加者に1名小学生のお子さんがあり、上手にアトリ、アオサギの絵を描いておりました。 （その他観察したもの）ドバト、シジュウカラ、ハクセキレイ、マガモ、モミの木など</p>			
				カワセミ（翡翠）のオス	コガモ（手前3羽がオス、奥2羽がメス）	点線が今回のコース	
2	26	佐藤	善宝	<p>テーマ：ロウバイと日本庭園を楽しむ 天候：快晴、参加者11名（うち幼児1名）</p> <p>早朝は冷え込んだものの、スタート時刻には暖かさが感じられるなかでの開催となった。この時季、テーマ探しに苦慮したが、航空公園自慢のロウバイ、小さいながらも日本庭園の趣を持つ、彩翔亭のある庭園で、春を告げるサンシュユ、マンサク、ミツマタ、フクジュソウの花などを観賞し、最後に、思ったほど開花してはいなかったが梅林のウメを観て解散となった。 途中、植木の剪定に関する質問が出た。シジュウカラ、メジロの姿も見られた。（その他観察したもの：クスノキ、マツ、タケ、シャリンバイ、シラカシ、スダジイ、アオキ、モッコク、アセビ、ヤブツバキなど）</p>	 <p>ソシンロウバイ(ロウバイ科) <i>Chimonanthus praecox f. concolor</i></p> <p>ロウバイは中国長江流域原産で、江戸期に日本に入って来ました。旧暦12月（新暦2月上旬：臘月）に蠟のような花を咲かすのでこの名が付いたのです。ロウバイ園には「マンゲツロウバイ」と「ソシンロウバイ」の二種があり、「ソシンロウバイ」の学名の末尾concolorは花全体が同じ色という意味です。英語名 wintersweetと言われるように、近づくと芳香が漂いますよ。</p>	 <p>日本庭園(彩翔亭)</p> <p>日本庭園は、自然景観を人工的に構成した日本独特の造形空間で、様々な歴史・変遷を経て江戸期に再構成と総合化が図られ、「池泉回遊式庭園」が主流となりました。土・水・石・緑が不可欠の四要素とされ、回遊する中で、明暗・高低・広狭などのコントラストにより巧みにストーリー性が演出された空間となっています。今日は日本独特の自然造形空間をじっくり楽しみましょう。</p>	
3	26	河野	松本	テーマ：			